

2016/5/31

## トランプ効果

今、我々は、西暦476年（雄略天皇20年）の、  
西ローマ帝国滅亡に匹敵する歴史的瞬間に遭遇する。

「米国よ さらば! Farewell to the USA.」

世界の民主政治は限界であり、トランプ現象はその結果である。

内外のメディア、政治家、評論家が、  
とりあえず様々な情報と見解を流すが、  
好き嫌いだけのスタンスで述べており、  
そのために、肝心なことが視えず、受け手を誤導する。

メディアと論者が、情報を肥大化させ、  
ますます実像が遠ざかるが、関係者は渦中で右往左往した分だけ、  
仕事をした気分になり、自己陶醉の麻薬効果に浸る。

ここで、立場を変えて、  
「もし、自分が米国人で、トランプなら」ば、  
彼の思考と行動と言動が理解できるか？  
できそうだ！

彼の主張の根幹となるものは、  
「ウソで固めた民主主義や民主政治」では、  
「本音で攻撃してくるイスラム国」に対応できず、  
「国連常任理事国でありながら、他国へ侵入を繰り返し、  
国際ルール無視の無法中国とロシア」の存在。  
さらには、「度重なる、協定破りの北朝鮮」にも対応できず、  
また、  
「自国を一致して守ろうともしない日本や韓国」の厄介者、  
その上、「米国に守られながら、その意識さえなく、  
内輪もめに専念する、きれいごと好きの、  
EUやNATO諸国」の面倒を見る必要はないとの結論。

常任理事国の中国やロシアが、世界平和に一切貢献せず、  
むしろ、世界の平和を乱しており、  
これ以上、米国が全くムダな尻拭いをする必要ない。

そもそも、

「戦後の世界情勢不安の第一原因であるイスラエル」なども、  
米国を利用するだけで、今まで米国の国益に反してきた。

ただ、トランプは賢くも、イスラエルには、今は言及していないが、  
彼の心の内の「反イスラエル感情」を、イスラエルは認識している。

トランプは不動産経営者であり、現実感覚もあり、  
過激発言も計算されたものとも言われるが、  
これは、希望的観測に過ぎない。

「強いアメリカをつくる」と言うが、  
相手が彼以上に高飛車に出たら、  
ヘナヘナと腰折れで、譲歩に譲歩を重ね、  
「さらなる、弱小アメリカ」となる。  
この種の人間は、相手が強いと見れば、引き際は速い。

このようになったのは、  
ノーベル平和賞のオバマ大統領率いる民主党政治の失敗の連続で、  
ある面では、規模は全く小さいが、日本に例を採れば、  
東芝、シャープ、三菱自動車の決壊と軌を一にする。  
つまり、アメリカが、リーダーの当事者の能力不足で、  
東芝・シャープ・三菱自動車化した。

また、自由や民主主義の理想、  
世界秩序の担い手の理想を掲げて、  
今まで他国に関わってきたし、  
「干渉」と日本のメディアさえ、その米国を、  
口調を合わせて非難してきたが、  
彼が候補公約で「撤退」を表明すると、日本では、  
学者らしきまでが「アメリカのご都合主義」と非難し、  
さらに、「むき出しのアメリカ中心主義」とであると非難し出した。

単純に考えれば、  
なぜ、アメリカが日本を守る必要があるのか？  
日本は、核武装して、自国と自国民を守ればよい。  
時代が急変し、「ここはお花畑」の時代は終わったのである。  
「現実さでは先進国」の北朝鮮を見倣えばよいの時論。

今後の21世紀の、米国の特徴を要約すれば、

- ① 劣化した自由主義・民主主義からの離脱
- ② 地政学を基盤とした伝統的な米国の世界戦略からの撤退
- ③ 国連からの離脱と脱退 ⇒ 米国は、以前から  
 潘基文率いる国連の無能ぶりに、再三、警告を今も発しており、  
 それが理由で、国連分担金も、記憶では、3回ほど拒否し、  
 離脱への助走であり、あまたの論者は読み取れていない。
- ④ 米国内の人種構成の変化で公用語はスペイン語併存
- ⑤ 連邦制度の崩壊と各州単位または合併による分裂  
 ⇒ Separated States of America へ  
 つまり、結束のない、今の中南米諸国のようになり、  
 大国米国としての機能の終焉で、  
 ずっと後世には、その国名は歴史遺産入り。



結果、表にすれば、(文責なし、不許複製)

米合衆国	米離衆国
United States of America	Separated States of America
アラスカ	ロシア領へ無償で帰属
北 部	① 21世紀初頭の中国人増加中のカナダ領へ ② 拡大カナダは、アジア系支配となり、今の台湾のような存在
東 部	① アメリカ領ではるが、オランダやベルギー化 ② ついで、中国領に。中国移民増加の結果。 ③ 対抗措置としての、先鋭化するユダヤ主義の台頭 ④ 結果は、両者衝突の結果予測は不可能
中西部	農業立国となり、スイスのような永世中立国分をわきまえば、年中のどか。
南部と西海岸	メキシコ領へ分解帰属



100年以内に「さらば、アメリカ」

しかも、それぞれが小単位化して、今の混迷するギリシア国のように

その後、世界覇者の中国とロシアが、  
 世界を2分するが、民族構成と民族攻勢優勢でロシアも崩壊、

ここで面白くなるのが、  
やがて、疲弊した元米国には、過激で戦闘的な、  
復古思想が湧きあがり、今の「イスラム国」とそっくりな、  
暴力的な「新米国（しんまいこく）」が、世界の目を引付ける。  
対するに、中国は、得意にして、  
伝統ある、せん滅作戦を強行するが、勝敗は予測不可。

では、日本は？ 無い！